

井上靖と台風

関東大震災をこえて—久米正雄

関東大震災と葛西善蔵

前田晁 加藤武雄からの震災見舞い

天災地変と詩歌

3.11

文学にみる浅間山噴火と千曲川氾濫

原阿佐緒と震災詠 —大正十二年九月一日の記—

天災を綴る —福井ゆかりの作家と天災—

文学にみる震災資料展

関東大震災と川端康成

齋藤貢詩集『夕焼け売り』をめぐる

司馬遼太郎と阪神淡路大震災

天災地変と文学

田辺聖子の震災記

花袋が見た災害

歴史地震—被災の記憶—

紙芝居『稲むらの火』—津波から村を守った男—

文人たちの震災

和合亮一展—僕はみんなの想いを空へ届けたい

森鷗外文学に見る天変地異

森鷗外と明治・大正の災害

小説『ハリケーン』を中心に

吉村昭と震災小説

中也の関係者が語る関東大震災Ⅱ

震災を書く

関東大震災と菊池寛

3.11 林芙美子記念館からのメッセージ

上林暁の書いた南海トラフ地震

武者小路実篤と関東大震災

寺田寅彦と地震 8

関東大震災と神奈川

熊本地震 復興と応援エール

文学館からのメッセージ

この全国文学館協議会の共同展示は、二〇一一年三月一日の東日本大震災を契機に開催されました。死者に対する鎮魂と被災者への慰謝を願う心から、当時の会長中村稔氏の提案に賛同した文学館が二〇一三年三月一斉に展示を始めました。

東日本大震災は、地震・津波という自然災害に加えて、原子力発電施設のメルトダウンによる放射能汚染が深刻な影響を多方面に与えました。汚染水の処理も今だにコントロールできず、廃炉の具体的な方策も進捗していません。

二〇一九年一〇月、台風一九号は豪雨と強風を連れて伊豆半島へ上陸し、太平洋側を北上しました。台風によって千曲川、那珂川、阿武隈川が氾濫し、一〇〇余名の人が亡くなり、二〇都県六万四〇〇〇棟が浸水し、凶書や文化財も泥水に漬り、農林水産業は二五〇〇億を超える甚大な被害を受けました。復興途上の東北地方は再度のダメージを受けております。

人は過酷な体験を、記憶から消し去ろうとします。そうでなくても記憶は時間に洗われ変容し、忘却していきます。

多くの表現者が天災地変を直視し、多彩な表現を紡ぎ出してきました。それらの表現を収集し、展示し、保存していくことも文学館の使命であると考えます。

ここに全国文学館協議会の各館は、この未曾有の大災害を直視し、記録に止め、死者たちへの鎮魂と哀悼、被災者への慰謝とコミュニティの復興を願って、共同展示を開催いたします。

二〇二〇年一月